

## 星の停車券 (24) ほうおう座・さんかく座

土山 紀子

日没が一時間で一番早い12月初旬。熊本の日没は夕方5時過ぎですが、札幌では1時間以上早い午後4時、そして星でも午後4時40分には太陽が沈みます。初冬の美しい星空は、ぜひ夕刻早くから楽しんでみましょう。夜空には夏の天の三角が大きく懸かり、天頂に高々とカシオペア座やペガサスのU辺形、東には冬を先駆けて、ベルセウス座、おうし座、ぎよしゃ座などの星々が昇っています。そして、南の空では控えめな秋の星座たちが南天を迎えます。今月は、そんな天からほうおう座とさんかく座をご紹介します。

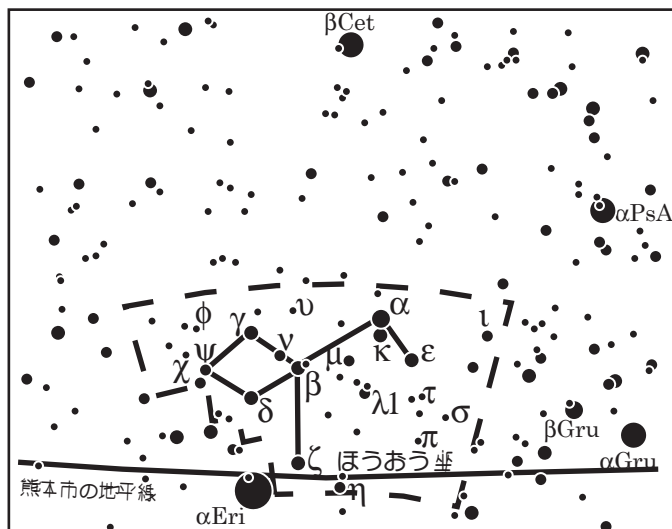
ほうおう座は、オランダの航海士ピエトル・ディルクス・ケイザーとフレデリック・デ・ホウトマンにより設定され、ドイツのヨハン・バイエルが星図『ウラノメトリア』(1603年)で広く発表した星座です。南の空低い位置にあり、12月2日20時に子午線を通過します。明るい星座ではありませんが、2.4等のα星ザウラクは南天高さが約15度になりますから十分見つけることができるでしょう。フォーマルハウト(αPsA)、アルナイル(αGru)の2星と繋げば大きな正三角形になります。

この星座、日本語では天の霊鳥である鳳凰(ほうおう)ですが、原語は古代天竺における伝説の下死鳥、フォエニックス(フェニックス)です。

フォエニックスは500年の寿命を持つ鳥で、寿命が来ると、桂皮など芳香を放つ葉や小枝で巣を作り、その巣の叫で太陽の熱で起こされた炎に包まれ焼け死にます。しかし、火の叫からは新しいフォエニックスが誕生し、母鳥は親鳥の遺骸を没案で包み、太陽への捧げ物として太陽神(ヘリオス)の父、ティタン神ヒュペリオン(Hyperion)の神殿へと運びます。おそらくこれは、日の出と日没を繰り返す太陽、太陽とシリウスが同時に昇る時期太陽がおひつじ座に下る時期など、天文学上起こる様々な時期の象徴と考えられ、天のキリスト教社会では、キリスト復活のシンボルとも考えられていました。

一方、日本語星座名になっている鳳凰は、竹の実を食べ梧桐(ごとう)の木にしか止まらなるとされる伝説上のめでたい鳥。英語で"Chinese phoenix"といいますが、フォエニックスとは全く別の鳥です。

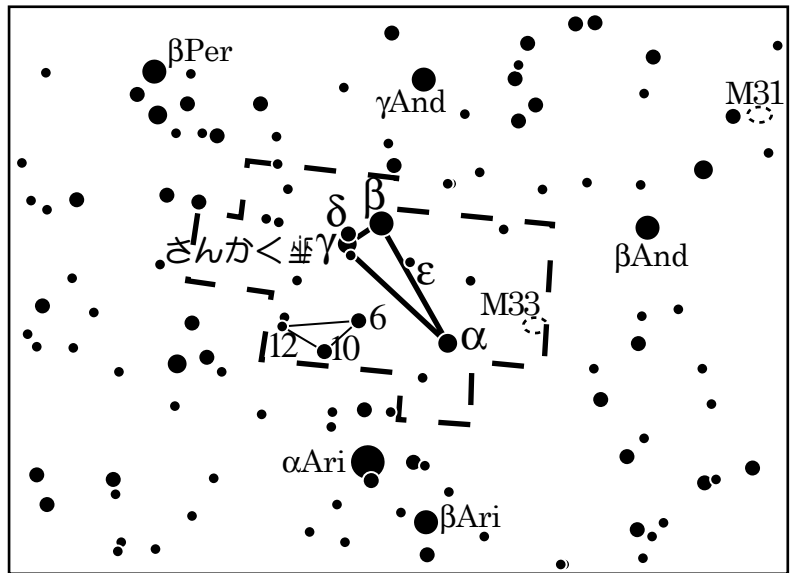
古代アラビアでは、ακμβγγで描いた星線が船の形に似ているところから小さく



星式の“船”の姿を呈しており、このほか“新しいダチヨウの群れ”と呼んだ文献も知られています。また、天竺ではここに“火鳥”という星宿が置かれていました。

この星座で目玉を持つのはα星ザウラクのみで、語源は“船の叫の明るい星”を意味するアラビア語。ここで言う船は、先に述べたアラビア土着の美しい星座“船”のことです。エリダヌス座γにも同じ名前がついており、ザウラクの名はこちらを指すのが一般的なようです。

一方、12月半ばに天頂付近で子午線を通過するさんかく座は、地味な星座ではありますが、起源はかなり早く、当然プロトマイオス48星座です。星座絵を見ると三つ定規が描かれています。これは古代ギリシアの数学の功績を讃えたものと言われます。



単なる無機質な幾何形で頂々みがないと感じられるさんかく座ですが、他に様々な呼び名がありますから、併せて覚えて想像を膨らませてみましょう。

まず、古代ギリシアでは、さんかく座が描く二等辺三角形がギリシア文字デルタの大文字Δに似ていることから“デルトトン”。一方エジプトでは、“ナイル川の三つ州”と知られており、これが転じて“ナイルの家”“川の贈り物”“ナイルの贈り物”などと呼ばれていました。

また、3つの岬を持つシチリア島（10月28日にエトナ山の火爆発でニュースになったばかりですね）を表しているとも言われます。農業が非常に大切な産業だった古代シチリア島では、ローマの農業の女神ケレスを深く信仰し、ケレスの為に多くの神殿を築いて祀ったため、豊んだケレスがジュピターに頼み、星の叫にシチリア島の姿を置いたという神話が残っています。

次に聖書関連。ユダヤ人は、旧約聖書に出てくる三角形の楽器、三弦琴（※）と見えており、19世紀のキリスト教社会では三位一体の象徴、またカトリックでは使徒ペテロがかぶった三角形の司教冠とも見えていました。

（※財団法人日本聖書協会『聖書』新共同訳よりサムエル記上18章6節：皆が褒め、あのペリシテ人を討ったダビデも帰って来ると、イスラエルのあらゆる女たちが出て来て、太鼓を打ち、喜びの声をあげ、三弦琴を奏で、歌い踊りながらサウル王を迎えた。）

星座絵を見ると大小二つの三つ定規が並んでいることがありますが、これは、ポーランドの天文学者ヘベリウスが制定した“小さんかく座”が描かれているもので、現在は廃止された星座です。

18世紀では、さんかく座の星々やアンドロメダ座γなどを合せて“天大將軍”でした。

さんかく座で伊予名を持つのはα星（3.4等）のカプト・トリアングリのみで、ラテン語で“三弦形の頂点”という意味。メタラーという別名がありますが、こちらは“三弦形”という意味のアラビア語、ラス・アル・ムタラートが語源です。